

論文内容要旨

論文題名

Spontaneous Theory of Mind in Adults with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder
(注意欠如多動性障害の成人における潜在的心の理論)

掲載雑誌名

Psychiatry Research vol. 288, 113025, 2020 年

専攻名 内科系精神医学 氏名 林 若穂

内容要旨

心の理論 (Theory of Mind : ToM) は、他者の心の状態を類推する能力のことであり、適切かつ円滑な社会コミュニケーションに不可欠である。近年、注意欠如多動性障害 (Attention Deficit/Hyperactivity Disorder : ADHD)にも社会コミュニケーション障害がみられることが明らかになり、ADHD における ToM に注目が集まっている。ToM は顕在的なものと潜在的なものからなるが、これまでの研究は顕在的 ToM を評価しているものばかりで、結果も一定していない。そこで本研究では初めて、ADHD 成人における潜在的 ToM の評価を、Senju ら (2009)が考案した誤信念課題と予測的視線計測を用いて行った。対象者は 24 名の ADHD をもつ成人 (ADHD 群) と、定型発達の 18 名の成人 (健常群) である。アイトラッカーを用いて、誤信念課題をみている最中の、アクターの誤信念と一致する方向、誤信念と一致しない方向、そしてアクターへの注視時間をそれぞれ計測し、ADHD 群と健常群で差を比較した。両群とも類似の注視パターンを示し、誤信念サイドと非誤信念サイドへの注視時間に有意差はなかった。一方 ADHD 群は健常群に比べ、アクターへの注視時間が有意に短かった。これらの結果は、ADHD における潜在的 ToM が定型発達と同様に健在であることを示すが、不注意症状が注視時間に影響している可能性も考えられた。今後はサッケード測定等の課題改良と、自閉スペクトラム症との比較を行う予定である。